

株主・投資家の皆様へ

幸せを、進化させる。

yokowo

第86期 中間株主通信

2023.4.1～9.30

株式会社 **ヨコオ**

(証券コード：6800)

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社をとりまく経営環境は、各国の積極的な金融引き締めによる景気の後退リスクに加え、ロシア・ウクライナ戦争の他、イスラエル国内における軍事衝突を背景とした原材料価格の高騰懸念など、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

しかし、このような環境下におきましても、当社の主要市場である自動車／半導体検査／携帯通信端末／先端医療機器市場においては、CASE^(※1)／MaaS^(※2)／5G／AI／IoT普及／ベンチャー企業による先進医療など、従来の枠組み・パラダイムを大きくかつ劇的に変える可能性の高い先進的なアプリケーションが目白押しな状況には変わりはありません。

このような状況の中、第86期(2024年3月期)第2四半期連結累計期間(上期)の当社グループの業績は、VCCSセグメントが前年同期比で増収となりましたが、CTC及びFC・MDの両セグメントが大幅な減収となった結果、367億9千4百万円(前年同期比△8.5%)となりました。利益面については、VCCSセグメントが営業黒字に転じたものの、

CTC及びFC・MD、インキュベーションセンターセグメントの営業赤字により、1億2千万円の損失となりました。経常利益は円安による為替差益を計上したことなどにより17億1百万円(前年同期比△74.0%)、親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、経常減益のほか、事業構造改善費用など特別損失計上により、9億5千8百万円の利益(前年同期比△77.1%)となりました。

通期の業績予想については、CTCセグメントにおける半導体需要の低迷が長期化している一方で、VCCSセグメントにおいては、世界的な半導体不足・部品供給停滞などの影響が緩和され、販売が改善方向に向かっていることや円安効果などから、売上高・経常利益を上方修正いたしました。中間配当・期末配当は1株当たり22円とし、通期配当予想は1株当たり44円といたしました。

今後も、当社スローガンに掲げている「幸せを、進化させる。」ために、引き続き企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具



代表取締役兼執行役員社長

徳間 孝之

※1 CASE: 自動車の新しいトレンドであるConnectivity(接続性)/Autonomous(自動運転)/Shared(共有)/Electric(電動化)

※2 MaaS: Mobility as a Service(移動のサービス化)

Purpose / 存在意義

人と技術で、いい会社をつくり、いい社会につなげる。

Vision / 目指す姿

社会ニーズのその先に、人と技術で挑戦し、「新しい」を生み出し続ける進化永続企業。

Values / 価値観

Respect	尊重
Fairness	公正・公平
Ownership	当事者意識
Challenge	挑戦
Innovation	革新

ブランドスローガン

幸せを、進化させる。

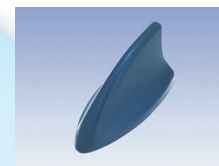
ヨコオの事業領域

当社グループの事業領域は、大きく分けて、VCCSセグメント／CTCセグメント／FC・MDセグメント／インキュベーションセンターの4つのセグメントがあります。精密金属パイプ加工からスタートした当社は、アンテナ技術・マイクロウェーブ技術・表面改質材料技術などさまざまな技術を導入し磨き上げ、アンテナ／コネクタ／先端デバイス製品と事業領域を次々と拡大して、革新的な製品を生み出してまいりました。これからも、次世代のエレクトロニクスをいち早くとらえ、最先端の製品を世界に向けて提案・提供し続けることにより、さらなる成長と企業価値向上に努めてまいります。

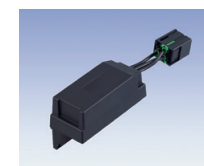
VCCSセグメント 売上高 **264億9千1百万円** (前年同期比+20.5%)

●車載アンテナ

車載アンテナの基本ニーズである小型化・複合化・低背化・スマート化に応えるため、次世代の車載通信を支えるアンテナシステムを開発・提案し続けることにより、安全・快適なモビリティサービスの実現に貢献します。



シャークフィンアンテナ

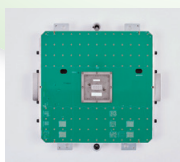


インパネ内蔵アンテナ

CTCセグメント 売上高 **61億8千8百万円** (前年同期比△52.6%)

●半導体検査用治具

電子部品の回路検査の微細・高速対応ニーズに応えるべく、半導体製造プロセスの前工程から後工程まですべての領域に対し、微細な半導体検査用治具を開発・提供しています。



プローブカード



ICソケット

インキュベーションセンター 売上高 **2億7百万円** (前年同期比+14.3%)

●プラットフォーム事業

自動車業界で培ったアンテナ技術等を、新規分野において、より先進的かつ付加価値の高い戦略製品として開発・提供しています。



2×2 MIMO 対応の 4G/5G アンテナ

●先端デバイス事業

高速大容量通信に向けた光通信市場に対し、汎用性と独自性を追求した高速伝送デバイス製品を開発・提供しています。

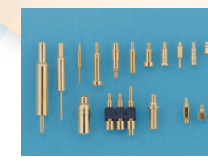


光トランシーバ

FC・MDセグメント 売上高 **39億3百万円** (前年同期比△21.7%)

●電子機器用コネクタ (ファインコネクタ)

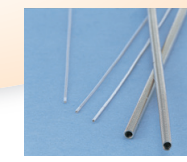
各種電子機器の小型化・省スペース化ニーズに応える微細「スプリングコネクタ」をグローバルに開発・提供しています。



各種スプリングコネクタ

●医療用機器 (メディカル・デバイス)

低侵襲治療の実現に貢献するOEMガイドワイヤ、医療用カテーテル微細精密部品の設計から開発・製造まで提供しています。



ガイドワイヤ・カテーテルシャフト用コイル

社長インタビュー

第86期の見通しや中長期的に目指すところについて、徳間社長にお話を伺いました。

―当期・第86期の業績見通しは、前期に比べて大きく落ち込んでいます。前回6月のインタビューでは「半導体需要の低迷」が背景にあるということでしたが、今はどのような状況にあるのでしょうか。

当社創業から101年目となる、進行中の第86期(2024年3月期)は、前下期からの逆風下の事業環境が続いており、2023年11月時点の業績予想値は、連結売上高750億円(前期比3.8%減)・営業利益2億円(同95.8%減)という、極めて厳しい状況に直面しています。

稼ぎ頭である「CTC」(前期までの「回路検査用コネクタ」)セグメントの主要市場である半導体検査市場は、第2四半期までが需要の底とみていましたが、半導体不況の長期化から、今期一杯は低迷が続くと想定を変更しました。これに伴い、不本意ながら、CTCセグメントは通期で営業赤字となる見通しです。

一方で、「VCCS」(前期までの「車載通信機器」からプラットフォーム事業を分離)セグメントにおいて、自動車業界全体のサプライチェーンの正常化に伴って事業プロセス上のロスが大幅に減少したことに加え、中国工場の人員適正化などの事業構造改革や、海上運賃の沈静



化もあって、営業黒字を回復、下期も徐々にですが利益を上積みしていけるとみています。

ファインコネクタ(FC)事業の売上低迷で、「FC・MD」(前期までの「無線通信機器」から先端デバイス事業を分離)セグメントも、営業赤字となる見通しです。

このような状況から、前回のインタビューでお示した第88期(2026年3月期)の業績目標は、設備投資計画と併せて、全面的な見直しに着手しました。来年5月の通期決算発表と同時にそれらも公表したいと考えています。

なお、配当予想については、今の受注の落ち込みは一時的なものであるという考えから、現在の「1株当たり44円」という予想はそのまま

据え置いています。

―厳しい状況の中ですが、何か明るい材料や、新たな方針などがあれば教えてください。

VCCS事業は、自動車メーカーの挽回生産もあって、当面、受注がかつてない高水準で推移する見込みです。部材の調達にややひっ迫感がありますが、安定供給を最優先で確保するとともに、中国工場→ベトナム工場、ベトナム工場→フィリピン工場への生産移管や継続的な原価低減活動などにより、事業継続体制とコスト競争力の強化を推進します。

CTC事業は、受注が低調な状況が当面続く見通しであるため、いったんは固定費構造をスリムにするべく、国内外の生産拠点間の生産比率変更など見直しを行っています。一方で、お客様からの先行開発依頼は多方面からいただいており、それらに着実にお応えして、近い将来の受注獲得につなげていきます。また、新規顧客の開拓でも手応えを得ています。今まで取引がごくわずかだった世界大手半導体メーカー等との間で、本格的な取引が始まりつつあります。さらに、5G(第5世代移動体通信システム)用高周波デバイスの普及に伴い、その前工程検査用プローブカード「YPX」シリーズがここ数年で販売を順調に伸ばしてきていますが、ここでも新規顧客との取引が始まろうとしていま

す。既存のお客様との間でも、残っていた技術的な課題をクリアしたことで検査対象の範囲がさらに広がりましたので、取引拡大につなげていきたいと考えています。

FC事業については、CTC事業と同様、既存顧客との取引拡大と新規顧客開拓に注力していますが、それと併せて、コスト競争力の大幅な強化を一大テーマとして取り組んでいます。合理化・省力化はもちろんですが、より根本にある、材料や加工方法等に踏み込んで見直しを行っていきます。

MD事業は、本年10月に、製造販売業の認可を取得しました。これまでの開発型OEMに加えて、企画商品開発も順次拡大し、ベンチャー・エコシステムの取組みと併せて、事業の拡大を加速していきます。

インキュベーションセンターは、主力は先端プラットフォーム事業のIoTアンテナや車載鍵管理システムですが、同セグメントの黒字化に向けて、新製品・新サービスの開発を加速していきます。

一前回に続いて、ESG(環境・社会・ガバナンス)／SDGs(持続可能な開発目標)の取組みについて、その後の進捗を教えてください。

当社の3つのマテリアリティに沿ってご説明します。

【環境】については、気候変動問題への対応がやはり最大の焦点です。GHG(温室効果ガス)排出量は、Scope1及び2の範囲に加えて、Scope3についても大まかな把握を行い、当社Webサイト上で公開しています。詳細・厳密なScope3排出量の把握も早急に進め、削減計画とそれに基づく削減活動につなげていきます。

【地域社会】については、当社拠点が所在する地域の皆様に「ヨコオがこの地域にいてくれてよかった」と思っていただけを「いい会社」を目指し、様々な地域貢献活動を展開しています。直近の例では、当社マザー工場のある群馬県富岡市で、プロチームのコーチやスタッフにもご参加いただいて、キッズ向けスポーツ教室の開催を支援し、参加された方々に大変喜んでいただけました。

【多様性と包摂性】では、障がい者雇用・活躍の促進を目的とした子会社「株式会社ヨコオみらいサポート」を2022年6月に設立しましたが、障がい者の方々の積極的な採用と活躍の場を地道に広げたことが認められ、本年3月に特例子会社の認定を取得しました。これにより、当社グループとして障がい者の法定雇用率を達成しましたが、その倍の雇用率を目標に、今後もますます活躍の場を広げていきたいと思っています。

本年10月に、EcoVadis様よりシルバーメダ

ル(世界の被評価企業・団体等の上位25%以上)の評価をいただきました。当社全体としてESGの取組み水準が向上していることがこの評価につながったと思っています。

当期は想定外の厳しい年度となっていますが、私自身は、当社が創業以来受け継いできたDNAを再確認し、それを行動で示してさらに強く根付かせる、良い機会だと思っています。当社のDNAとは、「自らの強みを活かして新分野・新市場を果敢に開拓するチャレンジ精神」、「収益性・成長性が見込めなくなった事業からは戦略的に撤退し、事業を常に生成発展させていく柔軟性」であり、そしてそれらの根源にある「しぶとさ、したたかさ」だと思っています。

半導体需要・半導体検査需要は、今でこそ落ち込んでいますが、CASE／MaaS／AI／5G／IoT等の先進的アプリケーション領域では、より高度でより多くの半導体が使用されることを考えれば、近い将来、再び増加に向かうものと予想しています。その時まで、しぶとく耐えつつ、したたかに次の手を打ち、回復・飛躍の機会を確実に捉えていきたいと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

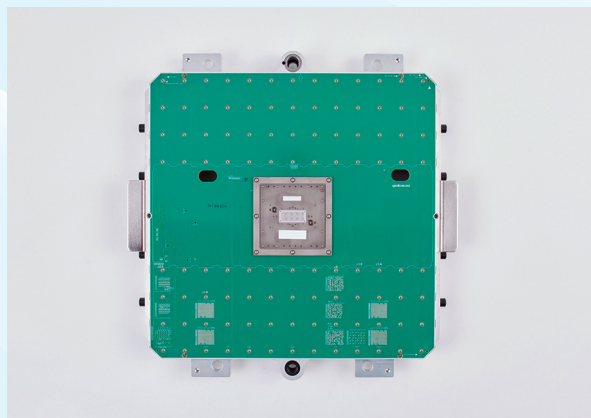
TOPICS トピックス

半導体検査に使うコンタクトプローブと、 フォトリソグラフィを利用した YPXシリーズ

■半導体を検査する前工程と、後工程

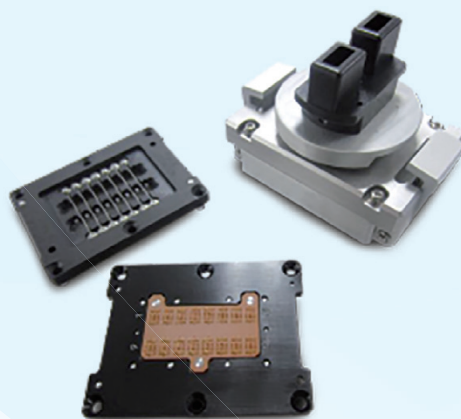
製造業の多くは、物を作ってからお客様に納入する前に、必ず製造した製品が正常に稼働するか検査を行い納入しています。半導体を製造するメーカーも同様に、製造した半導体が正常に動くかどうか検査を行っています。

特に半導体は、ウエハー形状時の前工程と、ウエハーから切断し、パッケージングされた後工程の2回検査を行うのですが、前工程と後工程の検査で使用する治具が異なり、前工程で使用する装置をプ



▲プローブカード

ローブカード、後工程で使用する装置をソケットといいます。



▲ソケット
(ロジック、アナログ、メモリ)

ヨコオは、後工程で使用するテストソケットの売り上げ比率が高く、CTCセグメントにおける、約8割をテストソケットが占めています。一方、前工程で使用するプローブカードにおいて、ヨコオは従来、プローブカードのコア部分であるプローブヘッドの製造を主に行っていたのですが、2019年ごろから、ターンキービジネスを本格稼働させ、プローブカードの本体から周辺機器までを含めて提供するようになり、徐々に売り上げを伸ばしてきています。

■半導体検査に用いるコンタクトプローブ

前工程のプローブカードも後工程のソケットも、外観は異なりますが、半導体に接触して検査する一番先端の部品は同じ構造をしていて、コンタクトプローブといいます。

コンタクトプローブは、金属のパイプとばね、そしてパイプの上下に取り付ける2つのプランジャーの合計4つの部品で構成されています。たった4つの部品と思われるかもしれませんが、半導体は年々微細化、集積化が進み、より小さく細くなってきており、今では、細いものでは直径0.015mmの製品もあり、製造の一部は人の手によって組み立てられています。



■フォトリソグラフィを使ったYPXの誕生

近年、半導体製品の更なる微細化、高周波化が進み、それら高周波製品に対応するプローブカードには、コンタクトプローブの長さを極限まで短く抑える必要があり、従来のコンタクトプローブを使う方式だけでは限界が来ていました。そこで登場したのがフォトリソグラフィを用いたYPXシリーズのプローブカードです。

フォトリソグラフィは、まず、ステンレス基板などにフォトレジストと呼ばれる膜を塗布し、光を当てることでフォトレジストを固めます。その時、固めたくない

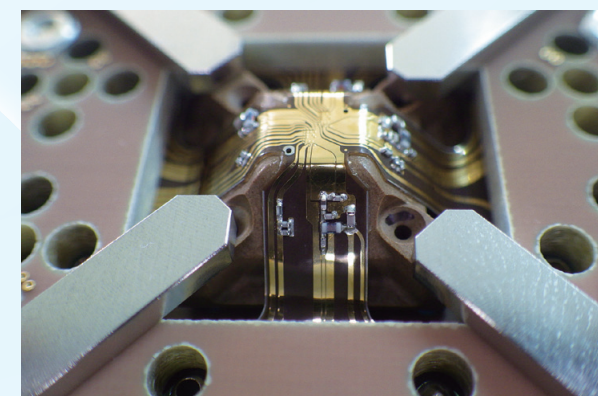
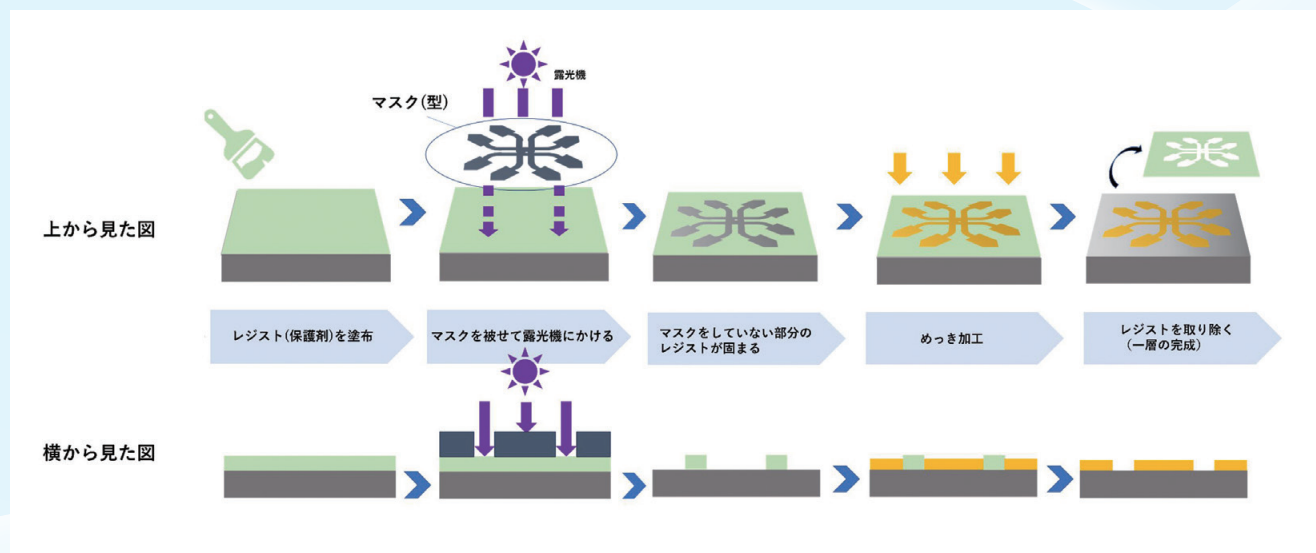
ところにマスクを被せることで、任意のパターンを作ります。

次に、固まっていないフォトレジストを除去し、めっき加工を行います。最後にパターンに使用したフォトレジストを除去することで1つの層ができ上がり、これらを繰り返していくことで積層し、製品を作っていきます。

■ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング様 CR-2プロジェクト「優秀賞」を受賞

ヨコオは、2013年にフォトリソグラフィ技術を利用した「YPXシリーズ」というプローブカードを製品化してからも研究開発を続け、進化を続ける半導体市場ニーズに応えてきました。そうした状況の中、本年7月には、ソニー様と共同で進めてきたプロジェクトの一つが評価され、数ある取引先企業様の中でヨコオが「優秀賞」をいただくことができました。

YPXシリーズは、CTCセグメント全体における売り上げ規模としてはまだまだ小さいですが、着実に売り上げを伸ばしてきており、さらなる事業拡大を目指してまいります。

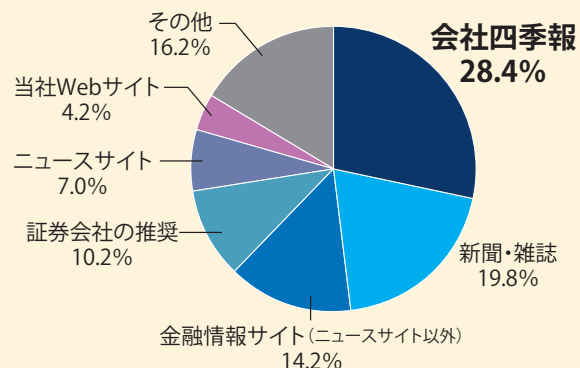


▲フォトリソグラフィ技術を利用した「YPXシリーズ」

アンケート実施報告

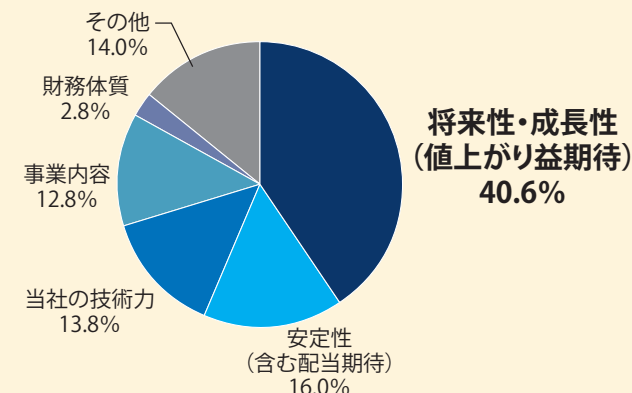
2023年3月末時点の株主様を対象に、ハガキによるアンケート調査を実施しましたところ、988名の株主様からご回答をいただきました。その集計結果と、頂戴したご意見の中から一部をご紹介します。

Q1 知ったきっかけ



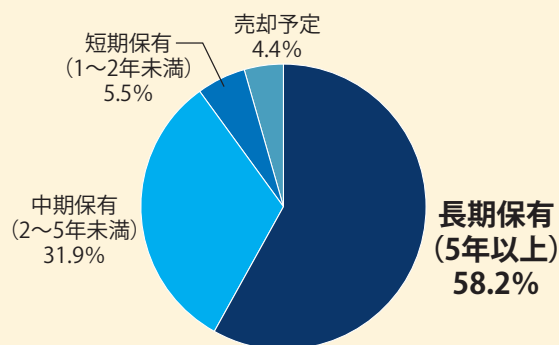
「Q1.当社株式をお知りになるきっかけとなったものは何ですか」に対しては、「四季報・会社情報」が28.4%でもっとも多く、「新聞・雑誌」の19.8%がこれに続きました。

Q2 購入理由



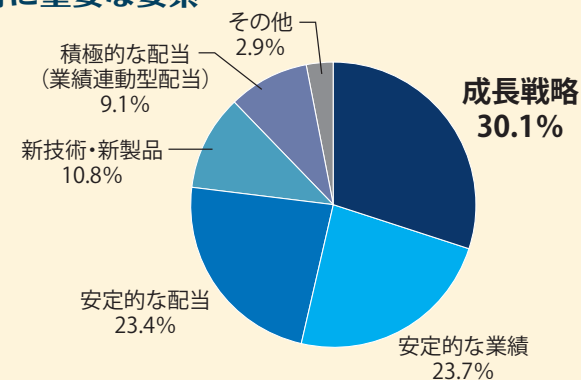
「Q2.当社株式をご購入された理由をお聞かせください」に対しては、「将来性・成長性(値上がり益期待)」が40.6%でもっとも多く、「安定性」が16.0%でこれに次ぎ、さらに「当社の技術力」「事業内容」等が続きました。

Q3 保有方針



「Q3.保有方針」に対しては、「長期保有(5年以上)」が58.2%でもっとも多く、「中期保有(2～5年未満)」が31.9%でこれに続きました。

Q4 長期保有に重要な要素



「Q4.当社株式を長期保有するためにもっとも重要な要素は何ですか」に対しては、「成長戦略」が30.1%でもっとも多く、「安定的な業績」が23.7%でこれに続きました。

以上の他にも、当社への要望・期待・叱咤・激励のお言葉など、数多くのお声を頂戴いたしました。アンケートにご協力くださいました皆様に、厚く御礼申し上げます。当社に対する理解を深めていただけるよう、今後も皆様のご意見を株主通信の誌面づくりに生かしてまいります。

株主の皆様からのご意見を紹介いたします(一部抜粋)

MPセンター竣工おめでとうございます。さらなる製品、技術の開発期待しております。

新潟県 70代

事業そのものだけでなく社会的責任を果たしていることが、TOPICSを見せてもらい良く理解できました。

東京都 50代

字が大きくて太いので高齢者にもわかりよい。写真、グラフが適切で良く分かる。御社のことが良く分かり好感が高い内容でした。

徳島県 60代

株主通信いつも楽しみにしています。内容については充実していると思います。ページ数をもっと減らして、簡単にしても良いかと思っています。これからも楽しみに待っています。

秋田県 40代

創業100周年おめでとうございます。増々の発展を願っています。

神奈川県 60代

株主通信において社長インタビューはわかりやすくよかった。小型GNSSアンテナの紹介はもっととりあげてもよい。

静岡県 40代

「ヨコオみらいサポート」大変興味があり、今後も紹介をお願い致します。

兵庫県 70代

とても見やすく、わかりやすかったです。4G5Gアンテナ・GNSSアンテナの販売。時代と共に安全・快適・豊かな社会づくりへの貢献。増々、頑張ってください。

神奈川県 60代

「社長インタビュー」に、今後の見通し・展望が詳しく書かれており、良かった。

千葉県 60代

事業の道筋などわかりやすく説明されていました。当期純利益等わかりやすかったです。これからも貴社様の発展をお祈りします。

京都府 60代

半導体需要等、諸事業を取巻く環境は厳しい感があるようですが、環境の好転に備えて粛々と対応されている姿勢が株主通信により伝わってきました。

千葉県 60代

この度の株主通信で貴社独自の奨学金の基金を設立されたことを知りました。株主の1人として、経済的困難を抱える未来ある若者を支える(わずかながらではありますが)お役に立てていると思うと誇らしいです。素晴らしい社会活動を決断された貴社の経営陣の方々の御英断に感動致しました。今後も太陽光パネルによるSDGs活動とともに応援しております。

東京都 40代

“ヨコオみらいサポート”はとても興味を持ちました。私の勤める会社も障がいのある人が働いていますが、サポート体勢がなく雇うだけ、それに比べ、御社の取り組みはすばらしい。

千葉県 50代

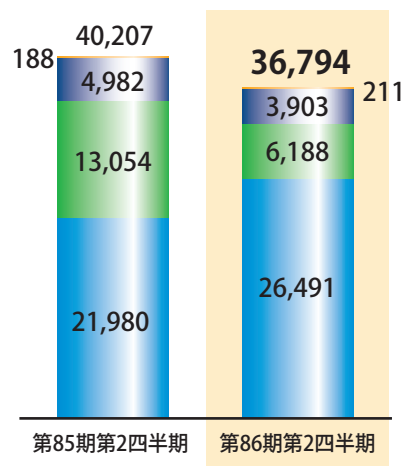
業績・株価推移

第86期第2四半期連結累計期間の業績

売上高

(単位: 百万円)

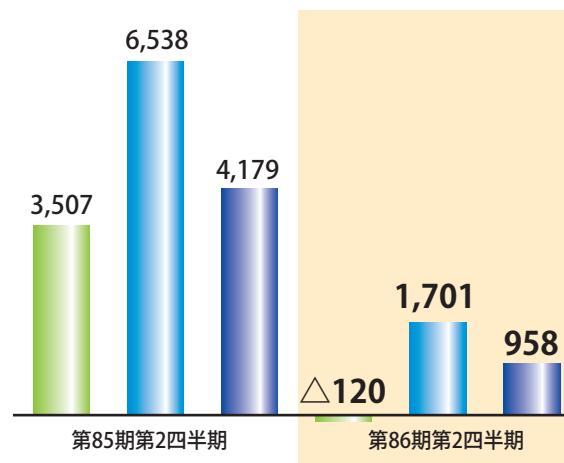
VCCS CTC FC・MD インキュベーションセンター



営業利益／経常利益／ 親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位: 百万円)

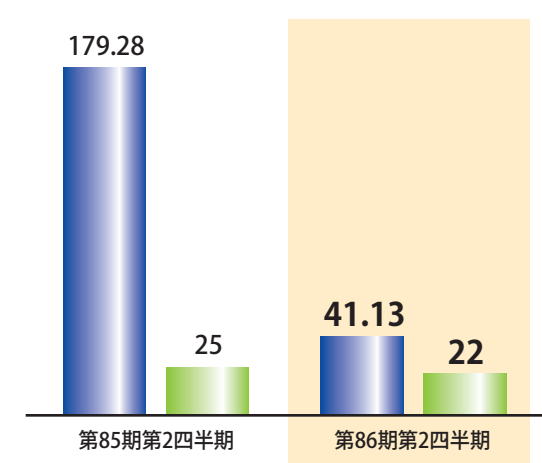
営業利益 経常利益 親会社株主に帰属する四半期純利益



1株当たり四半期純利益／中間配当金

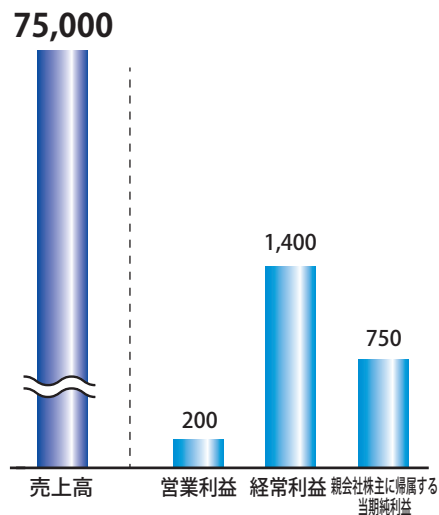
(単位: 円)

1株当たり四半期純利益 中間配当金

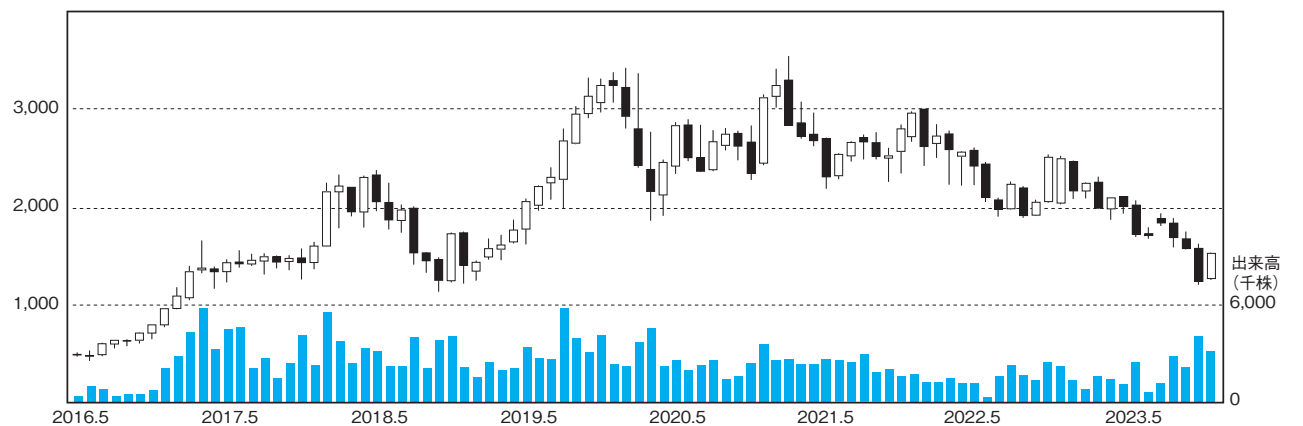


第86期通期業績予想

(単位: 百万円)



株価の推移



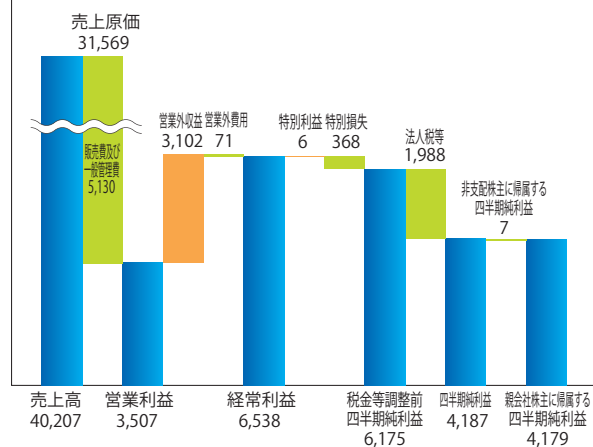
連結財務諸表(要旨)

損益計算書より

(単位:百万円)

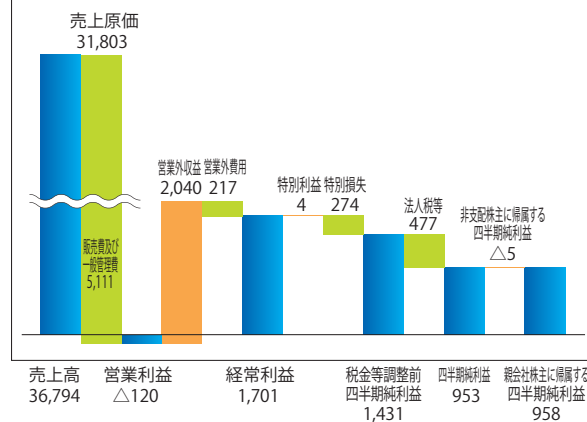
前第2四半期連結累計期間

(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)



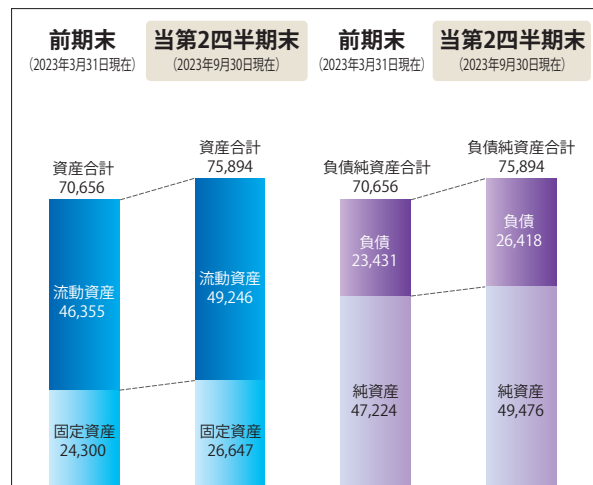
当第2四半期連結累計期間

(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)



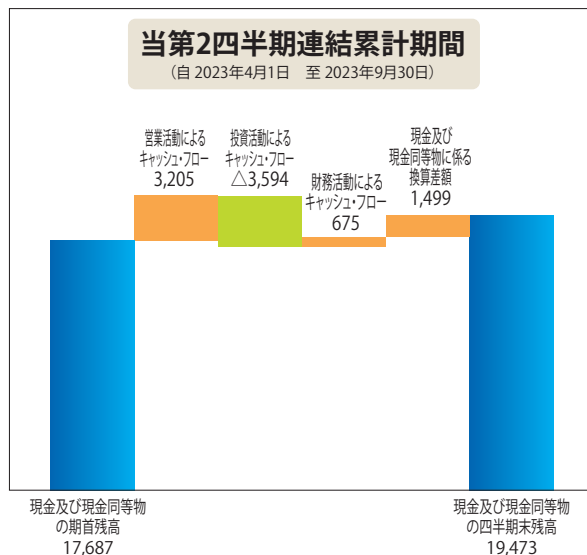
貸借対照表より

(単位:百万円)



キャッシュ・フロー計算書より

(単位:百万円)



会社の概要 (2023年9月30日現在)

商 号 株式会社ヨコオ
 本社所在地 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-25
 JR神田万世橋ビル14F
 電話: 03-3916-3111
 創 業 1922(大正11)年9月1日
 設 立 1951(昭和26)年6月14日
 資 本 金 78億1,912万円
 従 業 員 数 単体 986名
 連結 9,375名

株式の状況 (2023年9月30日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
 発行済株式の総数 23,849,878株
 (自己株式 539,008株を含む)
 株主数 7,123名

大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,352	14.4
株式会社日本カストディ銀行	2,099	9.0
株式会社群馬銀行	990	4.2
ヨコオ取引先持株会	818	3.5
三菱UFJ信託銀行株式会社	595	2.6
第一生命保険株式会社	450	1.9
株式会社三菱UFJ銀行	446	1.9
株式会社りそな銀行	445	1.9
ヨコオ自社株投資会	439	1.9
株式会社みずほ銀行	420	1.8

※当社は自己株式を539千株保有していますが、上記の大株主からは除外しています。
 ※持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 ※持株比率は自己株式を除いて算出し、小数点第2位以下を切り捨てて表示しています。

株式に関するお手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel:0120-232-711 (通話料無料) 【書類郵送先】 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 宛
・上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
・特別口座から一般口座への振替請求 ・単元未満株式の買取・買増請求 ・住所・氏名のご変更 ・特別口座の残高照会 ・配当金の受領方法の指定※	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel:0120-232-711 (通話料無料) 【書類郵送先】 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 宛
・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	【手続き用紙のご請求方法】 インターネットからダウンロードください。 https://www.tr.mufig.jp/daikou/

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

■株主通信のバックナンバー

株主通信は、発行と同時にヨコオHPにも記載され、バックナンバーも保管されています。

株主通信をスマートフォンでご覧になりたい方、バックナンバーをご覧になりたい方は、下記QRコードからアクセスし、ご覧ください。

◆ヨコオHP / IR資料室：株主通信



<https://www.yokowo.co.jp/ir/library/business-reports.html>

■IRニュースメール配信サービスのご案内

当社では、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様を対象にIRニュースメール配信サービスを提供しています。

決算発表やニュースリリースなどの当社IR情報について、ご登録いただいた皆様に電子メールでお知らせするサービスとなっております。

当社HPから簡単に登録できますので、お気軽にご登録ください！

◆IRニュースメール配信サービス



<https://www.yokowo.co.jp/ir/magazine/>

株式会社 **ヨコオ**

株主名簿管理人
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話：0120-232-711 (通話料無料)

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
 ユニバーサルデザインフォント
 を採用しています。

